

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 17 日現在

機関番号：37127

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24651178

研究課題名(和文) 安心安全な社会構築のための時間政策的な研究

研究課題名(英文) A Study on Time Policy for the Safe and Secure Society

研究代表者

辻 正二(TSUJI, SHOJI)

保健医療経営大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10123936

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究、安全な社会を構築するための時間政策的な研究である。今回の研究では、時鐘を聞くことのできる地域に住む人は、住んでいない人や過去に住んでいた人に比べて、地域への愛着度が高くなり、永住意識に関しても高くなることが分かった。三つの時鐘の機能の比較では、寺と教会の時鐘は、コミュニティ意識形成に関しては似た傾向を示し、カラクリ時計の時鐘機能がコミュニティ意識の形成に一番影響力を強いことがわかった。

研究成果の概要(英文)：This study is the time policy research for building a safe society. 3 areas with 3 kinds of bell (bell in a temple, bell of a church and bell of a mechanism clock) were compared for this study.

When it was judged from comparison of 3 kinds of bell by this study, the person who lives in the area where a bell can be heard found out that the degree of love to the area is and also becomes expensive about permanent residence consciousness highly compared with the person who doesn't live there and the person who lived there in the past. Comparison of the function of three bells showed that a bell in a temple and a church indicates the similar tendency about community conscious formation and that the bell function of the mechanism clock has influence by formation of common consciousness and community consciousness most. There is a possibility that the result of this research is also useful for reorganization of the area community today is losing.

研究分野：社会学

キーワード：コミュニティ論 時間学 サウンドスケープ 社会的時間

1. 研究開始当初の背景

本研究は、代表者が係わってきた山口大学時間学研究所の目指すべき研究を遂行するための研究企画として開始した。時間の考察には、運動（活動）と出来事と意味づけの三要素が必要なことを、これまでの研究（平成19～20年度科学研究費・萌芽研究「現代社会におけるスピード化と人間のリズムのズレに関する時間学的総合研究」、平成21～23年科学研究費・基盤研究（B）「現代社会におけるスピード化と人間のリズムのズレに関する時間学的総合研究」において見いだしてきた。

そして、ハイパー・スピード化社会の到来が、人間の活動を加速して、それが人間の生命的時間のリズムを越えた運動を生み、「出来事」へのコントロールが出来ない社会を生んでいることを見いだした。いまや人間は、過剰活動（過労）のなかで慢性的な「時差ぼけ状態」にあると捉えることができるのである。その面で、時間規範の再構築が喫緊の課題であり、この時間規範の構築のためには、時間規範を生み出す時間政策が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、時間学、認知心理学、犯罪社会学の立場から、「安心・安全な社会システム」を回復するために時間学の観点から地域コミュニティの再構築に必要な条件を探り、時間政策的に安心・安全社会づくりの課題を解決する方策を見いだすことを目指したものである。

(1)本研究は、われわれにとって時間学における時間政策的研究の樹立の端緒の研究になると考えている。仮説は「寺の鐘や役場のサイレンなどは地域住民に時間規範を回復させ、信頼感や規則正しい生活に寄与する」というものである。

3. 研究の方法

(1)本研究は、「時刻告知機能の鐘やサイレンなどが、コミュニティにおいて地域住民に共同的な時間感覚をもたらし、そのことによって規則正しい生活（時間規範の確立）や精神面・肉体面の健康づくりに寄与する」ということ、そして最終的にコミュニティの安心・安全の構築に寄与する」という仮説を検証することにある。

初年度は、主に社会病理的な資料と調査研究の準備おこなった。

次年の25年度は、調査地の選定と調査票を完成して、委託する調査機関と協議をしながら、調査を実施した。

そして、最終年度は調査結果の分析に当てられる。データ分析のなかから仮説検証の考察を行い、仮説の有効度の範囲を確定して、若干なり、学会や講演等で報

告した。

松田はアンケート調査とは別個に、音環境、画像を使い、聴覚と視覚情報による没入感の度合を調べる実験研究を行った。

(2)調査地は、江戸時代に北前船が寄港するなど港町・商都として栄え、千光寺の驚音楼の鐘のある広島県で2番目に市制を施行（明治31年）した尾道市、室町時代の大名大内氏の居城を築き、ザビエルが来て布教したザビエル教会のカリヨンの鐘が鳴る山口市、元禄8年(1695年)に木下延俊が暘谷城を築城され、三代の木下俊長の時世の元禄8年(1695年)に造られた元禄の鐘が鳴る大分県日出町の3地域である。調査は、平成年2月下旬～3月14日にかけて、郵送法を使い実施した。回数数は459通で、有効回収率25.8%であった。

4. 研究成果

(1)時鐘の3種類（寺の鐘、教会の鐘、カラクリ時計）の比較からみると、時鐘を現在聞くことのできる地域に住む人ほど、地域愛着度が高く、永住意識も高いこと、また、時鐘の中ではカラクリ時計の時鐘が高いことが分かった。寺と教会の時鐘はコミュニティ意識形成に関しては似た傾向を示し、カラクリ時計の時鐘機能が一番共同意識やコミュニティ意識の形成では影響力を持つことがわかった。

(2)時間意識と社会規範（非行観）については、共同性（鐘の音に関連する）に対する意識が高いほど、環境美化の公德心は高いことが認められ、自然の時間をあまり重視していない人は環境美化の公德心が低いことが明らかとなった。また規則正しい生活時間を重視する人ほど、性的な非行観および娯楽的な非行観においても高い傾向が認められた。

(3)時鐘施設の音環境のような、時を告げる音を活かすことにより、街などのコミュニティに対する帰属意識を高めることに応用できる可能性を示唆している。また、仰観景よりも俯瞰景の方が高い没入感を得られることから、俯瞰景は仰観景よりも街全体を見ることができ、街の多くの住民との共有感が得られたため、情景に対する没入感の上昇につながったと考えられる。よって、今後の課題としては、情景に映る人の数（音を共有する人の数）を操作して検討する必要がある。

(4)本研究の結果は将来的に、学校・企業などのコミュニティの仲間意識や帰属意識の向上を可能にする効果的な手法を生み出すことに貢献することが期待され、現代の喪失しつつある地域コミュニティの再構築にも役立つ可能性がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4件)

- 黒田怜佑・松田 憲・楠見 孝・辻 正二
(2014.06.28). 時間の共有感が仮想場面への没入感に及ぼす影響 日本認知心理学会第12回大会発表論文集, 2014, p. 16. 査読あり
- 作田誠一郎 (2014). いじめ現象における孤独感と自己矛盾に関する考察 山梨学院短期大学紀要, 34, 65-75. 査読有
- 松田 憲・一川 誠・矢倉由果里 (2013). BGMの音楽的特徴が聴覚的時間評価に及ぼす影響: テンポと音符に基づく検討 日本感性工学会論文誌, 12(4), 2013, pp. 493-498. 査読有
- 作田誠一郎, 2013, 「高校生の対人意識かみる曖昧化と両価感情」『山梨学院短期大学紀要』33:73 - 81. (査読あり)

〔学会発表〕(計 3件)

- 辻 正二、時間学からみた過疎問題 日本社会学会、2014年10月5日 神戸大学
- 辻 正二 高速社会における高齢者の適応問題, 日本社会分析学会 第125回例会 2013.7.14 (広島大学)
- 辻 正二 高速社会におけるネット青年の適応問題, 日本時間学会 第5回大会 2013.6.9 (山口大学)
- Matsuda, K., Sugimori, E., & Kusumi, T. (2012.12.09). Nostalgia and mere exposure effect: Impact of stimuli repetition and spacing. Special International Seminar for Time Study Time and Space in Perception and Action, Yamaguchi University, JPN. (山口市)

〔図書〕(計 3件)

- 辻 正二 他、九州大学出版会 鈴木榮太郎の社会学と時間的視点 徳野貞雄(編) 暮らしの視点からの地方再生、2015年 359
- 松田 憲 (2014). なつかしいものがなぜ好きになるのか 楠見 孝(編) なつかしさの心理学: 思い出と感情 誠信書房 pp. 237-262. 査読無
- 岡邊 健・作田 誠一郎他編著 (2014). 犯罪・非行の社会学 常識をとらえなおす視座 犯罪報道の功罪: マス・メディアが伝える少年非行, 71 - 91, 有斐閣. 査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻 正二 (TSUJI, Shoji)
保健医療経営大学・教授
研究者番号: 10123936

(2) 研究分担者

松田憲 (MATSUDA, Ken)
山口大学・理工学研究科・准教授

研究者番号: 10422916

岡邊健 (OKABE, Takeshi)
山口大学・人文学部・講師
研究者番号: 10422916
(平成24年度研究分担者)

作田誠一郎 (SAKUTA, Seiichiro)
山梨学院大学短期大学部・准教授
研究者番号: 10448277
(平成25・26年度研究分担者)